



1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	松風学園整備工事(日中活動棟)	階数	地上1F
建設地	神奈川県横浜市泉区上飯田町1987番地	構造	木造
用途地域	第二種中高層住居専用地域、準防火地域	平均居住人員	100 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年03月 予定	評価の実施日	2023年09月28日
敷地面積	1,579 m ²	作成者	株式会社 川喜田建築設計事務所 代表取締役 川喜田 俊敏
建築面積	936 m ²	確認日	2023年10月05日
延床面積	835 m ²	確認者	横浜市建築局長



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.5 ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.2

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.9

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.5

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.1

LR のスコア = 3.5

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.8

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.5

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 設計上の配慮事項

総合		その他
利用者に配慮し、F☆☆☆☆を使用している。 主要給排水配管は耐用年数が高い材料を使用している。 ライフサイクルコストの低減に努め、地球環境保護に配慮している。		特になし。
Q1 室内環境 開口部遮音性能:T-2以上。照度が500lx以上1000lx未満。全館禁煙としている。	Q2 サービス性能 建築基準法に定められた25%増の耐震性を有する。給水VP(B)、排水VP(B)、通気VP(A)、Eは不使用。階高:3.7m以上。	Q3 室外環境(敷地内) 特になし。
LR1 エネルギー BPI _m =0.55。BEI _m =0.76	LR2 資源・マテリアル 節水マなどに加えて、節水型便器も採用している。LGS使用している。ODP=0、GWP=1の発泡剤を用いた断熱材を採用。	LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO ₂ 排出率が80%。光害対策ガイドラインと広告物照明の扱いの項目の過半を満たす。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■ LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい



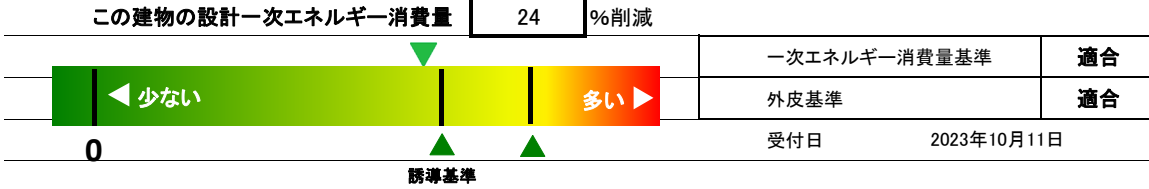
4 横浜市重点項目についての環境配慮概要 <非住宅>

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。

建物名称 松風学園整備工事(日中活動棟)

建築物の省エネルギー性能 (E) Energy Saving 重点項目への取組(5点満点) 【省エネルギー性能】 3

■省エネルギー性能 (国土交通省告示に基づく表示)



■エネルギー対策 (①建物外皮の熱負荷抑制 ②自然エネルギー利用 ③設備システムの高効率化 ④効率的運用)

①BPI_m=0.55

③BEI_m=0.76

健康・快適な職住環境 (W) Smart Wellness Community 重点項目への取組(5点満点) 【快適・働きやすさ】 3

■室内環境対策 (⑨温熱環境対策 ⑩光環境 ⑪空気質環境)

⑩照度が500lx以上1000lx未満。

⑪JIS・JAS規格のF☆☆☆☆をほぼ全面的に採用している。

■機能性対策 (⑫機能性 ⑬知的生産性向上の取組)

⑫モックアップ(実物大模型)やインテリアパースによる内装計画の事前検証を実施している。

■室外環境(敷地内)対策 (⑭敷地内温熱環境の向上)

防災への配慮 (R) Resilience 重点項目への取組(5点満点) 【防災】 3

■耐用性・信頼性 (⑮耐震・免震 ⑯部品・部材の耐用年数向上 ⑰信頼性)

⑮建築基準法に定められた25%増の耐震性を有する。

⑰給水VP(B)、排水VP(B)、通気VP(A)、Eは不使用。

地域・まちづくりへの貢献 (T) Township & Townscape 重点項目への取組(5点満点) 【地域・まちづくり】 3

■室外環境(敷地内)対策 (⑱生物環境 ⑲まちなみ・景観 ⑳地域性への配慮)

⑲植栽をして良好な景観を形成している。

太陽光発電などの導入

環境配慮技術の導入

(太陽光・熱利用、エネルギーマネジメントシステム以外)

エネルギーマネジメントシステム導入



CASBEE横浜2022年版v.1.0
松風学園整備工事(日中活動棟)

バージョン CASBEE横浜2022年版v.1.0

スコアシート	実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
	配慮項目	重点項目 <非住宅> <集合住宅>	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質							
Q1 室内環境							
1 音環境							
1.1 騒音							
1.2 遮音							
1 開口部遮音性能							
2 界壁遮音性能							
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)							
4 界床遮音性能(重量衝撃源)							
1.3 吸音							
2 温熱環境							
2.1 室温制御							
1 室温							
2 外皮性能							
3 ソーン別制御性							
2.2 湿度制御							
2.3 空調方式							
3 光・視環境							
3.1 昼光利用							
1 昼光率							
2 方位別開口							
3 昼光利用設備							
3.2 グレア対策							
1 昼光制御							
3.3 照度							
3.4 照明制御							
4 空気環境							
4.1 発生源対策							
1 化学汚染物質							
4.2 換気							
1 換気量							
2 自然換気性能							
3 取り入れ外気への配慮							
4.3 運用管理							
1 CO ₂ の監視							
2 喫煙の制御							
Q2 サービス性能							
1 機能性							
1.1 機能性・使いやすさ							
1 広さ・収納性							
2 高度情報通信設備対応							
3 バリアフリー計画							
1.2 心理性・快適性							
1 広さ感・景観							
2 リフレッシュスペース							
3 内装計画							
1.3 維持管理							
1 維持管理に配慮した設計							
2 維持管理用機能の確保							
2 耐用性・信頼性							
2.1 耐震・免震							
1 耐震性							
2 免震・制振性能							
2.2 部品・部材の耐用年数							
1 躯体材料の耐用年数							
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔							
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔							
4 空調換気ダクトの更新必要間隔							
5 空調・給排水配管の更新必要間隔							
6 主要設備機器の更新必要間隔							
2.4 信頼性							
1 空調・換気設備							
2 給排水・衛生設備							
3 電気設備							
4 機械・配管支持方法							
5 通信・情報設備							
3 対応性・更新性							
3.1 空間のゆとり							
1 階高のゆとり							
2 空間の形状・自由さ							
3.2 荷重のゆとり							
3.3 設備の更新性							
1 空調配管の更新性							
2 給排水管の更新性							
3 電気配線の更新性							
4 通信配線の更新性							
5 設備機器の更新性							



CASBEE横浜2022年版v.1.0
松風学園整備工事(日中活動棟)

バージョン CASBEE横浜2022年版v.1.0

スコアシート		実施設計段階		重点項目		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		<非住宅>	<集合住宅>	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
	6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-			-
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-			3.1
1		生物環境の保全と創出		2.0	0.30	-	-			2.0
2		まちなみ・景観への配慮		4.0	0.40	-	-			4.0
3		地域性・アメニティへの配慮		3.0	0.30	-	-			3.0
3.1		地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50	-	-			-
3.2		敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-			-
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-			3.5
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-			3.8
1		建物外皮の熱負荷抑制		5.0	0.20	-	-			5.0
2		自然エネルギー利用		3.0	0.10	-	-			3.0
3		設備システムの高効率化		3.8	0.50	-	-			3.8
4		効率的運用		3.0	0.20	-	-			3.0
		集合住宅以外の評価		3.0	1.00	-	-			-
	4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-			-
	4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-			-
		集合住宅の評価		-	-	-	-			-
	4.1	モニタリング		-	-	-	-			-
	4.2	運用管理体制		-	-	-	-			-
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-			3.5
1		水資源保護		3.4	0.20	-	-			3.4
1.1		節水		4.0	0.40	-	-			-
1.2		雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-			-
	1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-			-
	2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-			-
2		非再生性資源の使用量削減		3.5	0.60	-	-			3.5
2.1		材料使用量の削減		-	-	-	-			-
2.2		既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.22	-	-			-
2.3		躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.22	-	-			-
2.4		躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		5.0	0.22	-	-			-
2.5		持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.11	-	-			-
2.6		部材の再利用可能性向上への取組み		4.0	0.22	-	-			-
3		汚染物質含有材料の使用回避		3.7	0.20	-	-			3.7
3.1		有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.30	-	-			-
3.2		フロン・ハロンの回避		4.0	0.70	-	-			-
	1	消火剤		-	-	-	-			-
	2	発泡剤(断熱材等)		5.0	0.50	-	-			-
	3	冷媒		3.0	0.50	-	-			-
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-			3.2
1		地球温暖化への配慮		3.7	0.33	-	-			3.7
2		地域環境への配慮		2.7	0.33	-	-			2.7
2.1		大気汚染防止		3.0	0.25	-	-			-
2.2		温熱環境悪化の改善		3.0	0.50	-	-			-
2.3		地域インフラへの負荷抑制		2.0	0.25	-	-			-
	1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-			-
	2	污水处理負荷抑制		3.0	0.25	-	-			-
	3	交通負荷抑制		1.0	0.25	-	-			-
	4	廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.25	-	-			-
3		周辺環境への配慮		3.2	0.33	-	-			3.2
3.1		騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-			-
	1	騒音		3.0	1.00	-	-			-
	2	振動		-	-	-	-			-
	3	悪臭		-	-	-	-			-
3.2		風害、砂塵、日照障害の抑制		3.0	0.40	-	-			-
	1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-			-
	2	砂塵の抑制		-	-	-	-			-
	3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-			-
3.3		光害の抑制		4.4	0.20	-	-			-
	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		5.0	0.70	-	-			-
	2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-			-
上記以外の重点項目										
<事務用途>										
知的生産性向上への取組		快適・働きやすさ	⑬知的生産性向上への取組	-	-	-	-			-
<住宅用途>										
健康と安心										
1		化学汚染物質の対策		-	-	-	-			-
2		適切な換気計画		-	-	-	-			-
3		結露・カビ対策		-	-	-	-			-
4		犯罪に備える(共用部の防犯対策)		-	-	-	-			-